

インドネシアの政策金利引き下げについて

ポイント① 政策金利を7.25%に引き下げ

1月14日、インドネシア中央銀行は金融政策決定会合において、政策金利を0.25%引き下げ、年率7.25%とすることを決定しました。利下げは2015年2月以来となります。

同中銀は、前回までの金融政策決定会合で金融緩和の余地があることを示していたことなどから、市場の大半は今回の利下げを予想していました。

ポイント② 景気減速への対応を優先

今回の決定の背景には、インフレ率の鈍化などを受けて利下げ余地がある状況下で、同国の経済成長が減速していることがあります。

12月のインフレ率は前年同月比+3.35%と、約6年ぶりの低水準となり、同中銀のインフレーションターゲットのレンジである3-5%内に収まっています。また、2015年のGDP（国内総生産）成長率について、同中銀は前年比+4.7-5.1%との見通しを示していますが、市場参加者は同中銀の予想レンジの下限近くとなる前年比+4.83%と予想しています。これは2009年以来の低水準となります。

加えて、足元で中国株や商品市況の急落などを受けて世界的にリスク資産が売られるなか、インドネシアルピアは相対的に堅調さを維持していることも、同中銀が通貨下落リスクよりも景気減速への対応を優先する一因となったとみられます。

ポイント③ インドネシアルピアは対米ドルで横ばい

1月14日の外国為替市場（ニューヨーク時間17時頃）では、対米ドルで前日比ほぼ横ばい、対円で同0.4%程度のインドネシアルピア高となりました。

今後の金融政策について、同中銀は声明でマクロ経済と金融システムの安定性を維持しつつ、内外の経済動向を考慮して追加利下げが必要かどうかを見極めるとの方針を示しています。市場では、追加利下げを予想する声もあります。

図1：政策金利の推移

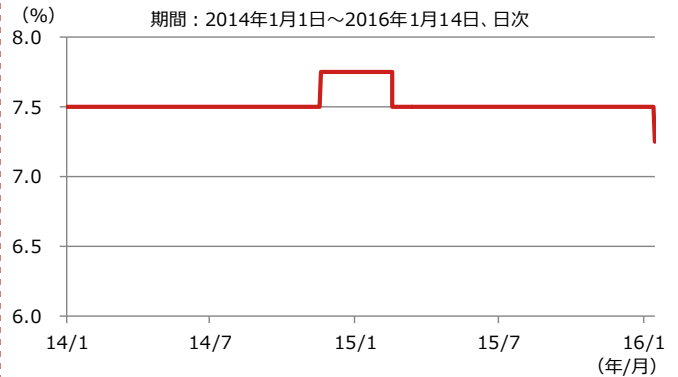


図2：消費者物価指数（前年同月比）の推移

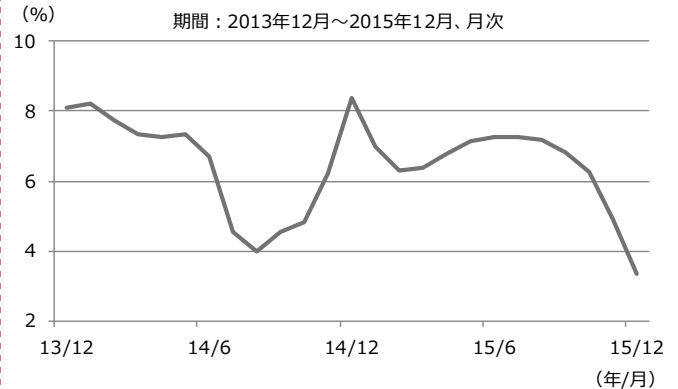
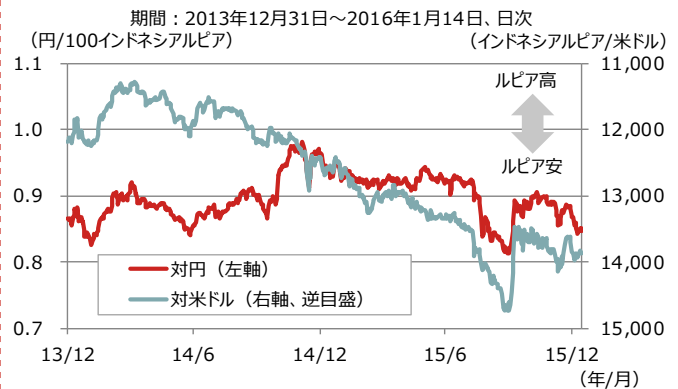


図3：為替レートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

2月1日	消費者物価指数(1月)
2月1日	年間GDP成長率(2015年)
2月18日	金融政策発表